

聞かれた中で特に印象深かった内容についてのコメントのまとめ

基調講演「病院から在宅へ これからの緩和ケア」について

- ・ 全人的理解、全人ケアについて
- ・ 超高齢化、多死、人口減少について。今後の在り方について。
- ・ 下稲葉先生のお話しが印象的でした。ターミナルの方においては医学的な事以外の支え(スピリチュアルな)が必要だと思いました。
- ・ 下稲葉先生の講演をまたお願いしたい。
- ・ 基調講演、下稲葉先生のお話しは良かった。人柄が出てとても心にしみる内容でした。
- ・ 下稲葉先生の患者様の心境についてのお話し、患者様に対する姿勢のお話しは心に響きました。
- ・ ホスピスでの余命の関わりをもう少し伺いたかったです。
- ・ 下稲葉先生の実際のお話をもっと色々お聞きしたかったです。共有することの大切さを感じました。
- ・ 事例の中で在宅復帰されている間に旅行や結婚式に出席するなど、入院しては実現できなかったであろう事が実現できたという事は素晴らしい事だと思います。
- ・ 下稲葉先生は長年の経験があり身近な話しとしてまだ沢山のお話しを聞きたいです。
- ・ 基調講演がもう少し長くても良かったと思った。もう少し聞きたいと思いました。

医師の立場から「在宅緩和ケアおんが病院の実際」について

- ・ 急性期病院の行う在宅医療であれば心強いと思った。
- ・ 在宅医療-スピーディ・心がこもっている。不安をとりのぞいて頂ける。
- ・ 医師の立場からこういう事で自分の身に置き換えて考えた点。
- ・ 病院の医師が訪問チームを作り在宅診療を実施していることに驚きました。
- ・ 専門的な話が少しかったのが不満でした。訪問診療を受けるにあたり、地区によっては訪問を行っていない病院ばかりで、なかなか往診が行えないのが現状です。
- ・ 医師から医療スタッフそして在宅利用者さんと在宅についての流れをととても分かりやすく知ることができました。人生最期について考えることができました。ありがとうございました。

訪問看護師の立場から「これからの在宅緩和ケア 訪問看護師として」について

- ・ ご家族の方のお話しを聞き、実際にご家族の不安や、どのように接したら良いか学べました。
- ・ 看取りでのケアマネの立ち位置が再確認できました。
- ・ 怖さ不安のある患者さん、介護する方の気持ちに紳士に向き合い、寄り添い共有して支えている医療従事者。
- ・ その方の体験している世界を分かろうとする姿勢で寄り添うことが必要だと感じた。
- ・ 訪問看護(師)の活動状況がわかったことです。一生懸命さがわかりました。
- ・ 24時間常によりそう訪問看護師さんにどれだけの方が救われているかと感じました。心ある医療素晴らしいです。
- ・ 24時間体制について、勤務体制についてももう少しお聞きしたかったです。
- ・ 緩和ケアで家族の気持ちや本人の気持ち意志に合わせてサポート・看護を行っていることがわかって学べた。良かったです。

ケアマネジャーの立場から「これからの緩和ケア ケアマネジャーとしてできること」について

- ・ ケアマネジャーの役割を強く感じた。
- ・ CMの仕事の段取り、サービスの流れについて確認することが出来た。在宅医療の重要性を初めて理解した。今後、突き詰めて学ぶ必要があると分かった。
- ・ CMの立場として緩和ケアを受ける本人様、家族に寄り添える様改めて考える時間となりました。ありがとうございました。

訪問薬剤師の立場から「これからの緩和ケア 薬剤師としてできること」について

- ・ レスキューは緊急時の麻薬。
- ・ 4年間麻薬の量が変わらなかったという事例。
- ・ 麻薬に対してもっと詳しく知りたいです。何%の方が気分不良等になりますか？本当に麻薬を使用して自分らしく生活出来ますか？

ご家族の立場から「在宅で夫と舅を看取っての家族の思い」について

- ・ おだやかな最期をむかえるための支援。
- ・ 最後の時、自分だけでなく皆様と一緒に過ごせたことが一番嬉しかったという言葉が印象的でした。
- ・ ご家族の思いが聞けてよかったです。
- ・ 御家族の心境から関係者ができる事の話しを伺えたので良かったです。
河村さんは勇気を出してお話しされていて、感銘を受けました。
- ・ 実際に訪問看護を利用され、患者さんはもちろんご家族の方が心が緩和されたと実感されたことが印象深かったです。
- ・ 実際に体験したご家族の気持ちを聞いたこと。
- ・ 自宅で看取ってよかったということ。
- ・ 入院中よりも家族の不安は強いはずだが、呼び出し時の迅速な対応に大変感謝されていた。
- ・ 患者だけでなく家族である河村氏も精神的に大変救われたと言っていたこと。
- ・ 御家族の立場でお話しが聞けて良かったです。
- ・ 実際に在宅看護されたお話しなど辛いけれど現実の話しとして聞けました。
- ・ いろいろな職種の方からの意見が聞けて良かった。特に患者家族の方の声が聞け今後の参考になりました。
- ・ こういう機会に何回も参加する事で少しずつ判りつつあります。家庭看護もありきかなと思うようになりました。パート毎に説明していただきわかりやすかった。体験者からの講演が一番参考になりました。
- ・ 在宅に戻った後の患者の状況、家族・主看護者の不安を知ることが出来ました。サービス等を教授することで安心感を生むことが出来る為、良い勉強になりました。

パネルディスカッションについて

- ・ パネルディスカッション中の下稲葉先生の言葉。
- ・ 下稲葉先生の16才の少女の話しが印象深かったです。
- ・ 下稲葉先生の若い患者さんの看取りについての話はとても考えさせられた。(複数)
- ・ 高齢者ではなく若い人の看取りについて話されたこと。
- ・ 患者さんに対して「(医療者は)できないことが多いけど、あなたを支えたい。」と下稲葉Drがお伝えになったエピソード。
- ・ 元気になるよとか軽々しく言わない、という終末期ケアの話。
- ・ 宗教のかかわりの話が印象的だった。
- ・ 高齢者は薬を自分で選択して服用している。それでも元気である。処方医の立場はどうなのか知りたいところです。
- ・ 処方された薬が残っていること(残薬)の話。
- ・ 在宅で実際に行われている事を聞くことができ良かった。
- ・ 各専門分野の方々の体験や知識がわかりやすく、またお願いしています。
- ・ パネリストの実践的な話、討議。家族の立場からのお話し。
- ・ すべてわかりやすかったです。
- ・ すべてのお話しがとても印象深く心にひびきました。
- ・ 皆様がこの話しのように考えておられることを聞いてとてもありがたかったです。
- ・ 人生最期は病院と常に思っていました但し本日の話しを聞き自宅を選びたいと思いました。
- ・ 緩和ケアに関する意識を起こささせていただきました(これから訪れるであろう在宅ケアについて)。
- ・ 在宅緩和ケアにとっても安心感を持ちました。夫婦2人暮らしなので終末を現実的に考える良いきっかけを頂きました。
- ・ 在宅医療を選択しても大丈夫だという安心のための体制がこの地域にあると感ずることが出来た。
- ・ 家族の在宅でのかかわりの重要性。スピリチュアルな面のフォローが必要である点。
- ・ 訪問現場の状況がとてもよくわかりやすかったです。家族の実体験からサポート力が伝わってきました。
- ・ 在宅看護が怖くないと思いました。
- ・ 在宅サポートが無制限であること。
- ・ 医療職としてよく考えさせられた。
- ・ 疼痛の緩和ができるのは、やはり病院なのかと最後のスライドを見て思った。
- ・ ケアの必要な本人様、ご家族の思いはとても大切で軽視できないと常に感じており、それを改めて実感した。
- ・ 死を迎える人に対して本気で取り組んでいるという点。
- ・ 事例であつたり本人家族の気持ちや状況などの意見を聞くことができ、今後役立てていきたいと思った。
- ・ 医療者として何が何ができるのか考えるよい機会となった。
- ・ 在宅療養中の家族の心の支え。
- ・ 緩和ケアとは対象者の不安を取り除く事？専門職として相手に安心感を与えていच्छやると思いました。
- ・ 討議で具体的なお話を聞けてよくわかりました。座長の質問よかったです。

将来、緩和ケアが必要になった時、在宅での療養を選ぶか

1. 選びたい

- ・ けれど家族はどう思うのか…と考える
- ・ 家族に緩和ケアが必要になった時は在宅を選びたい。自分自身の時はその時の状況による

2. 選ばない

- ・ 介護する人がいない
- ・ お嫁さんには迷惑かけれないと思うので
- ・ 子供への負担が多くなる
- ・ 家族に負担をかけたくないから
- ・ ホスピスを選びたい、おそらく世話してくれる人がいないため

3. 考え中

- ・ 家族のサポートが得られれば
- ・ 現状何とも言えない
- ・ 母を介護中。家族(自分と兄弟等)の身体的、精神的に耐えられるか不安
- ・ 病気の発見から死までの期間が短ければ選ぶ
- ・ 家族に迷惑をかけたくない

4. よくわからない

- ・ その時にならないと
- ・ その時の状況を検討して在宅が適切なのかをよく検討して決定したい

その他意見

- ・ 参考になりました。ありがとうございました。(複数)
- ・ 色々な立場の声が聞いて勉強になりました。(複数)
- ・ 今回のような講座を今後もどんどんと開催して頂きたいです。とても勉強になり身近に考えられるようになりました。まだまだわからない事など沢山あるので知識も身につけていきたいです。
- ・ 参加して本当によかったと思いました。緩和ケアの事を真剣に考えていきたいと感じました。パネリストの方々の日々の頑張りにも胸を打たれました。地域がこの方々によって守られている事を改めて感動いたしました。ありがとうございました。
- ・ 在宅医療や看護について住民の人にも情報提供できる場は大切だと思いました。(少しでもイメージができる手助けになると思う)
- ・ 地域の一般の方を招いての講座で実際在宅療養を行った方の話が聞けるのはとても良いと思います。
- ・ 行政の変革が見えた。
- ・ 住民さんは少ない様に感じた。全体の時間が長い様に感じた。
- ・ 内容がとてもよかった。一般住民の方がどの程度おられたのか…多くの住民に聞いてほしい内容だった。
- ・ 癌になったらホスピスを選びたいが、それ以外なら在宅を選ぶかもしれない。
- ・ 今回参加するまで在宅は考えていませんでした。もう少し考えてみようかと思いました。
- ・ 勤務先の施設でも看取りケアをしており、何名かの入居者様を見送りました。今後、このお話を思い出し今まで以上に入居者様、ご家族の気持ちに寄り添っていきたくと思いました。
- ・ ガンで亡くなった父の事を思い出しました。当時より今の自分であれば少しは良くケアができたのと思いました。制度やいろいろな情報を知るということは大切。発信をお願いします。
- ・ 家族が余命を言われたら…在宅ケアなど考えてもいませんでした。今日色々な立場の方々からの話を聞き、家族が最期まで自分らしく生きられる様にサポートしていきたいと思いました。
- ・ 両親を二人共に癌で亡くしました。訪問看護も当時はまだそれほど知られていない時期で医療につなげられないまま自宅で急変し、救急車を呼んだ時には心肺停止の状態です。救急隊員から病院ではなく警察に連絡となりました。事故死扱いで突然の死を受け入れられないまま警察の現場検証でトラウマになる経験をしました。もう一人の親は胃癌との診断を受ける迄、地域で耳を傾けてくれる医師と出会う事がすぐに来ず、遠方の家族の住む地域の病院にかわり「スキルス胃癌」と診断が立ちました。その病院で熱心に治療方針の事を説明してもらい、家族の思いを聞き入れてもらえました。1ヶ月間の入院の後、自宅で訪問診療、訪問看護を受けながら家族に看取られて亡くなりました。介護する家族の側としての課題は色々あると思いますが、いかに医療機関が家族をサポート出来るかが大切だと思えます。(コメントより一部抜粋)
- ・ 今回の公開講座で私自身の最期の迎え方を考える時を与えていただきありがとうございました。私は独居1人暮らしですから、改めて終末期について考える必要に気づかせていただきました。参加させていただいて良かったです。